

石井方式は他の学科も理解しやすくする

石井方式では、「社会科用語は社会科で、理、数科用語は理、数科で提出し、指導すべきである。」と考えていますが、これは、石井方式の基本原則を実施すれば当然そうなるべきものですが、それ以上に、言葉を漢字とともに学習することが言葉の理解、および記憶を助けるからです。

「さんかく、ちよくせん、四しゃ五入、しゆく図、しゆくしゃく、がい数、がい算」は算数用語ですが、これを漢字で表記するとずっと理解しやすくなります。



理科、社会科用語もかな書きでは理解がむずかしい

「くっ折、しょう点、地下けい、さ岩、でい岩」(理科用語)では、言葉の意味を理解することがむずかしく、記憶も安定しません。漢字なら理解しやすく、記憶が安定します。

「だん流、こう水量、こう水、き権、内かく」(社会科用語)これらは、漢字で表記してこそ理解できる言葉であって、ぜひ、漢字で表記して指導していただきたいと思います。

「他教科で漢字を教える。」と考えるからこそ負担になるように聞こえますが、実は、その教科学習に大切な役割を果たしている用語を理解しやすくするために“漢字で学習”しているのですから、負担になるどころか、学習負担が軽くなるのです。

教科書に漢字を貼ることは、時間を取り、児童にとっても大変な負抑ではないか、と考えられそうですが、実は、そうではないというのが、これを実施している先生方の一致した意見です。

黙々と貼りつける作業の中で、子供たちは、静かな、深い読みの学習をしている、というのです。それは、他の方法では得られない貴重な、価値ある学習だということです。

実は、私自身は、母親の仕事にしたり、宿題にしたりしましたが、確かに、先生方のおっしゃるとおり、一見無駄な労力に見える、この漢字

貼りは、そのために他の学習の何かが削られたとしても、十分に償って余りある効果があることを、私は信じています。

それについて、新潟の亀山東小の草間完生(一年生担任)の次の記録を紹介したいと思います。

「十一月の研究会に出席された先生方が一番多く取り上げられた問題は、一年生の小さな子供たちが、あの細かい漢字カードを一つ一つ切って糊を付けて貼っていく、ということの大変さであった。

ところが、皮肉なもので、子供たちは漢字貼りが大好きなのである。先日こんな事があった。急用ができたため、明日の漢字貼りのためのカードを用意する時間が取れなくなってしまった。その事を子供たちに話すと、『どうしても貼りたい。僕たちはいい子になってひとりで勉強しているから、その間に作って下さい。』という意気込みである。それほど好きな勉強ならどんな事をして間にも合わせなければと、夜業で仕上げ、翌朝教室へ持って行くと、四十二名の子供たちが、にこにこ顔を見合わせて、『よー』と歓声を上げたのには、私は驚いてしまった。(中略)

いつもは私と余り口をきかない子供も、漢字貼りの時は、『これ、どこへ貼るんですか。』と聞きに来る。判ると、私の顔を見上げて、にこっとしてステップを踏みながら席について作業をする。一ページ貼ると、

『こんだけになった。』と見せに来る子供。『きれいに貼ったね。』と一言言うと、にこにこ顔で帰る。

早く終わった子供は、お手伝いがしてやりたくてたまらないらしい。互いに助け合っている。(中略)

覚えてくれと口で頼んだ覚えはないが、実によく覚え、よく読んでくれる。明日もまた漢字貼りの日である。『よー』と立ち上って歓声を上げ、手をたたき音が耳もとに聞えるようである。」